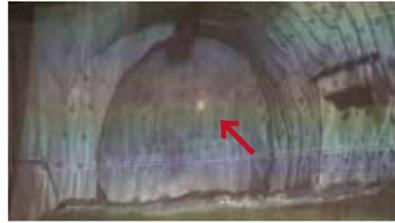




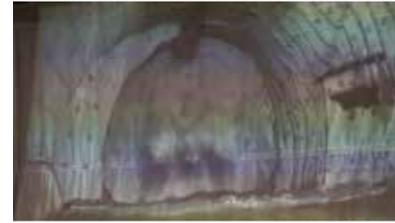
貫通の歴史的瞬間



貫通前の最終発破地点。最も身長の高い職員の身長が約 175cm。



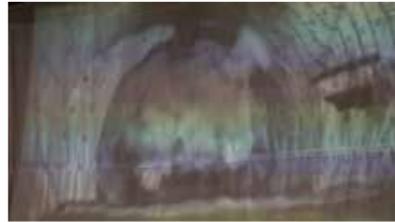
カウントダウンに合わせて、点火されると、中央に閃光が。



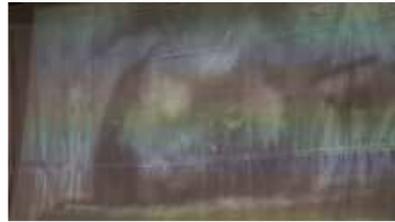
次の瞬間には、中心部から爆発していく。



爆発が進むと、破片が中央部分から飛散していく。



爆発は、中央部から、段々と、外側に広がっていく。



破片とともに、粉塵が広がる。



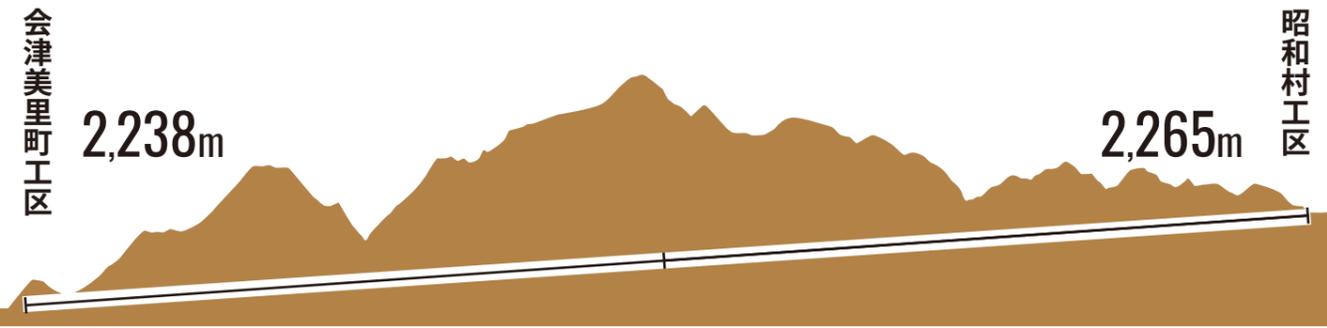
ぼんやりと中央に見えるのが会津美里町側に設置された投光器。



粉塵が落ち着き、貫通点にいくと、反対側がよく見える。

工事の概要をあらためて

トンネル総延長 **4,503m** (県管理トンネルとしては最長)
両側からの掘削は、福島県施工では、史上初!



※ 開通に向けて、覆工コンクリート作業など、仕上げ工事が続きます。開通ではありませんので、お間違えのないようお願いいたします。

広報

号外

しょうわ

■ 令和3年7月6日発行
 ■ 編集・発行
 昭和村役場 総務課 企画創生係
 〒968-0103
 福島県大沼郡昭和村大字下中津川字中島652
 TEL 0241-57-2111(代表) FAX 0241-57-3044(代表)



博士 トンネル 貫通

7月2日(金)午前10時30分頃、関係者が見つめる先には、最後の発破箇所が映し出された大型のスクリーンが用意されていた。

関係者の「10秒前」からカウントダウンの声に合わせてダイナマイトへと点火されると、写し出されたスクリーンには閃光とともに、轟音が。ほどなくして、数百メートル離れたスクリーン設置場所へ衝撃波が伝わってきた。

10時31分頃、貫通。

すでに掘削が完了している会津美里町側へ設置された投光器の光が粉塵に反射し、ぼんやりと映し出されたー。

CHECK! 当日の様子は、
 村公式チャンネル
 及び役場窓口にて
 ご覧頂けます。



掘削期間 955 日

トンネルの掘削が開始されたのは、平成 30 年の 11 月 21 日のこと。

ブームヘッダーと呼ばれる機械を用いて掘削が始まった。

昭和村側の工区は、湧水などの理由から当初の予定より遅れての、貫通となった。



楽しもう。

貫通のおよそ 20 分前、発破を手がける笹島建設の作業員に、戸田・フジタ・会津土建特定 IV 三宅所長(以下、三宅所長)は、

「ド派手に…。楽しもう。頼みます。よろしく。」

と、これまでの困難を思い返すかのように、言葉を噛み締めながら、声をかけた。



三宅所長に、見学会などでお会いしたことがある方はご存じだろうが、とてもフランクな方。

令和元年 8 月に広報しょうわで、特集にも掲載しているが、小中学生から、「トンネルを掘る仕事のやりがい」という質問に対して、次のように語ってくれている。

「トンネルを掘るといことは、知らない土地で人と出会えること、その先に、何かあるかわからない場所を安全に掘り進めるために、考えをめぐらすこと、ヒント(調査)を元に掘削していき、その通りだった時。何より、未来をつ

これまでの経過

- ・幾度にも渡る、関係機関への要望活動
- ・平成 24 年度 道路概略設計、地表地質踏査
- ・平成 26 年度 事業採択、事業説明会、中心杭設置式
- ・平成 27 年度 道路詳細設計、橋梁予備設計、トンネル予備設計、地質調査、計画説明会
- ・平成 28 年度 橋梁詳細設計、トンネル詳細設計など、用地買収、明かり区間工事着手
- ・平成 29 年度 博士峠工区起工式
- ・平成 30 年度 トンネル工事着工

くっているということ。」と。
(広報しょうわ No.603 令和元年 8 月号より)

昭和村工区は、2,265m のトンネルを掘削しなければならない。毎月広報紙で、その掘削状況をお伝えしていたが、初めの頃は、会津美里町工区を大幅に上回るスピードで、掘削が進んでいた。途中から、そのスピードが段々落ち、あまり進まない月もあった。

当時の実際の様子は、推し量ることしかできないが、固い地盤には、発破で対応したり、湧水への対応など、さまざまな創意工夫がなされていたことと思う。まさに、特集の取材時に答えていた「何がわからない場所を安全に掘り進めるために考えをめぐらすこと」を日々繰り返していたに違いない。

その人柄ゆえ、大変なことがあっても、それを感じさせない三宅所長も、貫通の瞬間ばかりは、違ったようだ。

発破完了後、貫通点に向かいずっと、目指して掘ってきた向こう側を見つめる所長の目には、うっすらと輝くものが。

幾多の困難を乗り越え、未来をつくった瞬間だった。



貫通点を見つめる三宅所長。込みあげて来るものがあったようだ。

関係者による式典

貫通点の確認後、工事関係者による式典が行われた。

貫通点には、お清めの塩と酒が撒かれ、鏡開きがおこなれた。



貫通点に清めの塩を撒く。



鏡開きで、貫通を祝う。

貫通石には、ご利益がある

貫通点付近で、採取することができる石を「貫通石」と呼ぶ。

貫通石には、安産のお守りや、「難関突破・初志貫徹」の意味合いから学業成就のお守りとして用いられるそう。

そんなありがたい貫通石を、本村と会津美里町の両町村に貫通の記念として、モニュメントにするべく、産業建設課から職員が出向き、無事に採取することができた。

オブジェが完成したあかつきには、また改めて、ご紹介したいと思う。



貫通点付近から、モニュメントに最適な石を運び出す村職員。



記念撮影をする戸田・フジタ・会津土建特定 IV の皆さん

黒四魂

話はかわって、世紀の難工事と言われた黒部第四ダム建設。その中でも最も、困難を極めた大町 2 号トンネルの工事を元に、映画化された『黒部の太陽』。なんとこちらの映画で、石原裕次郎役のモデルとなったのが、協力会社である、笹島建設の、創設者である笹島信義さんとのこと。

一人ひとりが、強い志を持って難関に挑む、全員の力が集まればできないことはないと思う、笹島建設。

トンネル工場の現場は、いつも危険と隣あわせ。一度災害が発生

すれば、重大災害になりかねないことから、一致団結し、安全に配慮しながらトンネルを掘る、それがまさに黒部第四ダム建設から引き継がれる「黒四魂」。

(2265TIMES 2021 年 6 月号より)

最後の最後に、笹島建設の職人さん等をお願いをして、写真を撮らせていただいた。

貫通点の向こう側からのぞく灯りが、これまでの困難な作業を称えているようだった。大変お疲れさまでした。

次の現場もご安全に。



凛々しい表情が頼もしい、笹島建設と戸田建設の作業員さん。お疲れ様でした。